

寒晴や未だ弔意の文字なさず

藤田湘子

平成十二年六月六日に逝去した飯島晴子への追悼の意であろう。翌年、遺句集『平日』と『飯島晴子読本』が発行され、「鷹」の内外から偲ぶ文章が寄せられているが、湘子のそれはどこにも見当たらない。そのことに返って、湘子の、晴子喪失に対する思いの深さを感じずにはいられない。

自死という訣別であつたことが少なからず湘子のペンを鈍らせたのかもしれない。

「死者とまだ訣れてをらず白木槿」 「螢火忌けいくわと呼ばむか晴子逝きたる日」 「螢火忌のいづこの闇に居給ふや」 「賑々と螢つれ来よ宵のうち」 「白髪に螢火飾り頭ちませり」 俳句には晴子への追慕の思いが残された。

2001年 (h13作) 第十一句集『てんてん』 鑑賞・野本京